

みんなの

ちいき ふくし

CHI-KI FUKUSHI SOJA CITY COUNCIL OF SOCIAL WELFARE

社協だより
vol.49

3

2017

CONTENTS

ひきこもり支援.....	2
生活支援サービス.....	4
地区社協ニュース.....	6
権利擁護センター“しえん”.....	8
生活困窮支援センター.....	9
障がい支援.....	10



社会福祉法人 総社市社会福祉協議会

「すべての住民が、自分の住み慣れた地域で、自分らしく、生き生きと、豊かに暮らせるふれあい、助け合い、支え合いのある住民主体の福祉コミュニティの実現」

講座を開催しました

ひきこもり支援は社会全体の課題です

11月18日から2月4日にかけて、「ひきこもりサポーター養成講座」を5回シリーズで開催しました。この講座は、ひきこもりの方やその家族の支え手として「居場所」づくり等に協力いただけるサポーターの養成を目指して実施したもので、30名の定員に38名の応募がありました。

本講座は、岡山県立大学の周防 美智子先生（ひきこもり支援等検討委員会 調査者支援者養成WGリーダー）のコーディネートで、「ひきこもりの理解と支援」をテーマに開催しました。

初回は、総社市の支援資源を共有するため、市職員から「総社市でのひきこもり支援の取り組み」について。2回目は、岡山大学の塚本千秋教授から「多角的な視点から



総社市でのひきこもり支援の取り組みについて



自分たちに出来ることを考えてみよう（グループワーク）



自分たちに出来ることを考えてみよう（発表）



ひきこもりサポーター養成

第1回	平成28年11月18日(金) 10:00～12:00 「ひきこもりの理解と支援①～総社市でのひきこもり支援の取り組み～」 講師 岡山県立大学 保健福祉学部保健福祉学科 講師 周防 美智子さん 説明 岡山県備中保健所、総社市、総社市教育委員会、社会福祉協議会
第2回	平成28年11月25日(金) 10:00～12:00 「ひきこもりの理解と支援②～多角的な視点からひきこもりを理解しよう～」 講師 岡山大学大学院 教育学研究科 教授 塚本 千秋さん(精神科医)
第3回	平成28年12月15日(木) 10:00～12:00 「ひきこもりの理解と支援③～支援者の話を聞いて理解を深めよう～」 講師 NPO法人あかね 代表理事 中山 遼さん
第4回	平成29年 1月20日(金) 10:00～12:00 「ひきこもりの理解と支援④～自分たちができることを考えてみよう～」 講師 岡山県立大学 保健福祉学部保健福祉学科 講師 周防 美智子さん
第5回	平成29年 2月 4日(土) 13:30～16:00 「ひきこもりからつながる地域づくりフォーラム」 基調講演 講師 興譲館高等学校 法人事務局長 堂野 博之さん (不登校を題材にした映画「あかね色の空を見たよ」原作者) その他、本人、家族、支援者等のシンポジウムも予定しています。

ひきこもりを理解しよう。3回目は、NPO法人あかね代表理事の中山 遼さんから「支援者の話を聞いて理解を深めよう」。そして4回目は、周防先生によるグループワーク「自分たちができることを考えてみよう」という内容で、これまでに学んできたことから、自分たちができるひきこもり支援について考えていただきました。

本講座に参加いただき、サポーターとして登録した方を中心に、具体的な活動を検討していきます。ひきこもりサポーター養成講座は、来年度も開催します。関心のある方は、ぜひご参加ください。



自分たちに出来ることを考えてみよう(グループワーク)



自分たちに出来ることを考えてみよう(発表)



周防先生(岡山県立大学)



塚本先生(岡山大学)



中山さん(NPO 法人あかね)



理想の「居場所」を考えてみよう(発表)

～いつまでも～

地域で暮らし続けたい！を実現する みんなの支え合い活動！



地域の絆

～私たちにできること～



団塊の世代が75歳以上となる2025年（平成37年）には、3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上になると予想されています。

《これからの地域社会の実情・・・》

- ①ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯の増加
- ②認知症高齢者の増加
- ③担い手（若者など）や福祉の専門職が急速に不足
- ④日常生活の支援活動（生活課題）の増加 など

★これからの地域社会がめざすもの

年をとっても、障がいがあっても、「住み慣れた地域で、できるかぎり元気で、安心して暮らし続けることができる地域」の実現をめざしています。

「住まい」を中心に、「医療」・「介護」・「予防」・「生活支援」といった必要なサービスや支援が一体的に提供される仕組み（つながりのある地域社会）を構築していきます。このことを、《地域包括ケアシステム》といいます。《地域包括ケアシステム》の実現に向けた体制の充実・強化を図るため、平成28年4月から『生活支援コーディネーター』が総社市より社会福祉協議会に事業委託され、配置されました。

●生活支援コーディネーターってどんな人？

地域の特性や課題を把握したり、地域での支え合い活動の発掘や、新たな支え合い活動の創出、「人と地域と活動」をつなぐ推進役です。

① 地域資源を把握し情報を発信します

② 支え合い活動の担い手を増やします

③ 住民主体の支え合い活動を応援します

④ たくさんの笑顔をつなげます



住民主体
THE 支え合い活動

住民主体の 生活支援サービスが立ち上がります！



★総社市生活支援 にこにこサポーターによる支え合い活動

介護保険制度の改正に伴い、平成 29 年 4 月から新しい総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）が始まります。要支援 1・2 の人の訪問型サービス（ホームヘルプサービス）と通所型サービス（デイサービス）は、その人の状態に応じた適切なサービスの利用に変わります。

高齢者の豊かな自立した生活を応援する活動として「にこにこサポーター（通称 にこサポ）」による生活支援サービスが、4 月からスタートします。

にこにこサポーターは、「総社市介護予防・生活支援サポーター養成講座」の修了生が登録された「支え合い活動」です。

定期的な連絡会を開催し、情報交換や活動内容の共有、利用方法とその周知など、活動のスタートに向けて準備を進めています。



総社市生活支援
にこにこサポーターの活動【主な内容】

(1) 掃除

- 部屋の掃除
- お風呂の掃除
- トイレの掃除
- ゴミの分別
- ゴミ出し など

(2) 簡単な家事

- 洗濯
- 食器洗い
- 季節衣類等の出し入れ
- 調理の補助
(食事準備・片づけ・食材カット など)
- ★ 本人と一緒に行動

高齢者の豊かな自立生活をお手伝いする応援団

(3) 買い物

- 買い物の代行
(依頼により買い物を代行する)
- 買い物の同行
(一緒に買い物に同行する)

(4) 外出時の付き添い

- 地域の集いの場
- 近隣の病院、銀行 など
- ★ サポーターが運転する車には同乗しない
- ★ 公共交通機関等での移動
(費用は利用者負担)

(5) その他

- 介護予防・自立生活を支えるために必要とされるサポートの内容
→ にこにこサポーターで対応できること(要相談)

★今後も、地域における生活課題（移動・買い物・担い手・居場所など）を解決するための取り組みについて、多様な関係機関とともに検討していきます。

三須地区社協

合同防災訓練



平成28年12月11日(日)午前9時30分から11時30分まで総社東公民館グラウンドにおいて、「三須地区合同防災訓練」が開催されました。

当日は、天候にも恵まれ約130人の参加があり、三須地区地域づくり協議会(岡弘会長)から「万が一、有事の際には適切な対応、加えて予防意識が浸透することを願う」と、開始宣言により開始されました。来賓には、片岡市長をはじめ地元市議会議員のご臨席を賜り盛大に開催することができました。



この防災訓練は、三須地区地域づくり協議会発足2年目・三須地区全町内会

久代地区社協

3世代ふれあいまつり



平成28年11月13日(日)快晴。久代地区の住民、出身者等約100名と民生委員・児童委員、福祉委員、栄養委員、愛育委員、総社高校・総社南高校生



ボランティア等約60名の総勢160名余りの参加で「三世代ふれあいまつり」を盛大に開催できました。まず、全員そろってラジオ体操で体をほぐしてから、元気いっぱいの子どもも相撲。小さい子どもは、手作りまわしを付けてがんばりました。ボランティアの学生の参戦もあり応援に熱が入りました。ダンスは、子どもも大人もなかなか的の中央を射ることができないな

清音地区社協

清音健康福祉まつり



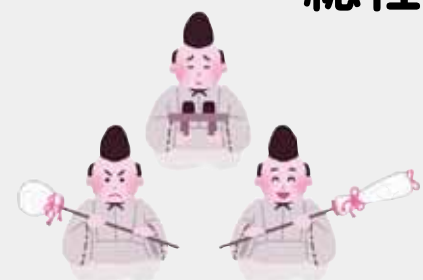
12回目となる清音健康福祉まつりを、平成28年10月16日(日)清音福祉センターにおいて開催しました。

清音小学校・認定こども園の児童たちが、「福祉やボランティア」をテーマに夏休みの課題の一つとして福祉作文・ポスターに取り組みました。開会式では、優秀作文4点、優秀ポスター15点の作品に対して表彰式が行われました。



会場には、福祉に関わる17団体が企画・出店した美味しい食事やお菓子、コーヒー、バザーの物品販売や介護にかかわる品々の展示とお悩み相談等のコーナーも設けられ

いきいきシニア総社



いきいきシニア総社(総社市老人クラブ連合会)は、現在、市内に60単位クラブがあり、会員数は3593人です。各地域にて単位クラブが活動をしています。連合会としては、グラウンドゴルフ大会や研修会、女性委員が中心となつて企画する女性委員講座など幅広く活動をしています。

いきいきシニア総社では今年度、新しくペタンク講習会とペタンク大会を開催しました。ペタンクのことを知らない方にも参加いただけるように大会の前に講習会を開きました。ペタンクの基本を学び、単位クラブへ持ち帰って大会ま



に自主防災組織が結成されたことにより実施されました。三須地区社会福祉協議会では、趣旨に賛同し、三須消防団と共催しました。



訓練内容は、「避難誘導訓練」・「初期消火訓練」さらに消防団による操法実践訓練を參觀しました。

三須地区社協では、「炊き出し訓練」を担当し、前日の午後から炊き出しの仕入れ準備等をし、当日は午前8時からハイゼックス米の袋詰め等準備しました。訓練終了時には、カレーライス130食分の炊き出しを試食いただきました。

自主防災は、地域の絆で助け合うことが必要であること、また、消火器の使用方法を学ぶ等、災害時に対する意識が培われたものと考えます。



がらも、真剣に的に向かっていた。また、チーム対抗戦として輪投げ、玉入れをしました。



そのほか、愛育委員による血圧測定や手作りけん玉のプレゼント、栄養委員による味噌汁の塩分測定がありました。また、昼食として野菜たっぷりのドライカレーとスープが振舞われ、青空の下、美味しくいただきました。

午後からは、コミュニティ協議会主催によるミステリーウォークもあり、久代地区の再発見をすることができました。これからも、



久代地区を中心に人と人の繋がりを大切にしていきたいと思っただけです。

ました。また、2階の大ホールでは、子どもたちの遊びコーナーが設けられ、親・お年寄り3世代の多くの方たちがゲームなどに参加し、楽しんでおられました。



午後からは、「福祉講演会」が行われ、『心を元気に笑いと涙の話と歌』というテーマで、心の元氣パートナー石川達之様の講演がありました。ご自身の32年間の消防職員としての経験から、心の健康の大切さ、今生きる幸せについて、ギターの弾き語りや歌も交え、笑いと感動を与えられたひと時でした。

なお、総社高校、川崎医療福祉大学の学生ボランティアの方々に、前日から準備・参加等で、このお祭りを盛り上げていただきました。



での準備をしていただきました。そして、大会当日は多くの単位クラブの参加があり、練習の成果を発揮しながら、笑顔溢れる楽しい大会となりました。ペタンク初心者でもチームのメンバーと力を合わせ、元気に体を動かしていました。

いきいきシニア総社では、皆さん元気に楽しく地域で活動しておられます。ぜひ、地域の単位クラブへ加入して、一緒に活動を楽しみましょう。



平成28年度 第2回 弁護士・司法書士・社会福祉士による

ミニなんでも相談会

総社市権利擁護センター“しえん”では、総社市民の方を対象に、**無料**の相談会を開催します！

■日常生活トラブル ■家・土地のこと ■離婚のこと
■成年後見制度のこと ■借金のこと ■相続のこと など

この機会に、お気軽にご相談ください！！

◇日時 **平成29年3月6日（月）14：00～15：30**

◆場所 総社市総合福祉センター 2階 技能習得室・教養研修室

◇相談員 岡田孝文 弁護士（総社法律事務所）
中村文彦 司法書士（中村文彦司法書士事務所）
尾崎力弥 社会福祉士（岡山パブリック法律事務所）

◆定員 9名程度（一相談員あたり3名程度）

◇その他 定員に達し次第、締め切らせていただきます。

＜お申し込み・お問い合わせ＞
総社市権利擁護センター“しえん” 総社市中央1-1-3
TEL (0866) 92-8374 FAX (0866) 92-8284



連載 第13回

「近隣火災により自宅が

延焼してしまった場合」



総社市権利擁護センター
“しえん”
弁護士 山内 弘美

今回は、近隣の住宅が火災に遭い、火の粉が風に煽られて自宅も延焼してしまった場合についてお話ししたいと思います。

この場合、当然出火元に対して、延焼した分の家の建て替え費用を請求できると思われるのではないのでしょうか。民法においても、「故意又は過失によって他人の権利又は法律上保護される利益を侵害した者は、これによって生じた損害を賠償する責任を負う。」（民法709条）という規定があります。しかし、日本は歴史的にも狭い土地に木造家屋が密集しており、火災が発生すると広がりやすいことから、出火元に延焼した家屋の損害を全て賠償させるのは過大な負担となります。そこで、失火の責任に関する法律によると、失火者に重大な過失があった場合でないと、民法709条は適用されないことになっています。つまり、出火元に火の不始末等の重大な過失があれば、延焼した分の損害について賠償請求できますが、重大な過失がなければ請求できません。したがって、自宅が延焼された方は、火災保険に入っていない場合は何の補償も受けられない可能性があります。他方、出火元の方も、重大な過失がある場合、莫大な額の損害賠償を請求されることになります。

毎日のように火災のニュースがテレビから流れてきますが、いつ身近で起こってもおかしくありません。どのような場合どのような補償を受けられるかは、保険契約の内容によって異なりますので、一度確認することをお勧めします。

総社市生活困窮支援センター



フードドライブへのご協力ありがとうございました。

およそ76kgの食料品が集まりました！！



平成28年12月3日（土）に「フードドライブ」を実施したところ、24人の方から食料品のご寄付をいただきました。

皆様からご寄付いただいた食料品は生活困窮支援センターを通じて、食料支援が必要な方へ提供させていただきます（食料品のご寄付は随時、本センターで受け付けております）。

○食料品：242品目（総数983品）

食品分類	個数	総重量
乾麺・小麦粉類	30	6.24kg
菓子類	37	1.94kg
ふりかけ類	42	2.97kg
インスタント食品	261	7.60kg
缶詰・瓶詰	39	7.73kg
調味料類	358	16.34kg
飲料類	187	26.18kg
パックご飯類	29	6.90kg
合計	983	75.9kg

○ご寄付いただいた食料品



まずはお気軽にご相談ください！

総社市生活困窮支援センターでは、市内にお住まいで、生活が不安、経済的に困りな方を対象に無料で相談を受付けております。相談の秘密は厳守いたします。

このような悩みで困っていませんか？

- ☒ 失業・就職の失敗・仕事が長続きしない
- ☒ 借金や公共料金の滞納
- ☒ 食べるものがない・住まいがない
- ☒ 家族がひきこもりなど気になる家族がいる



お困りごとに対し、自立に向けた目標（支援プラン）を一緒に作成します。
目標（支援プラン）が達成されれば、支援終了となります。

はじめに専門スタッフが相談内容をお聞きします。
内容により、情報提供や専門機関をご紹介します。

**自立相談
支援**

**家計相談
支援**



<お問い合わせ>

〒719-1131 総社市中央1-1-3 総社市総合福祉センター内
総社市生活困窮支援センター TEL (0866) 92-8374
【受付時間】月～金曜日 午前8時30分～午後5時15分
(土日・祝日・12/29～1/3は除きます。)

総社市身体障がい者福祉協会 会員募集

ペタンク大会♪



身体障がい者福祉協会は、会員相互の親睦と福祉の向上を図る事を目的とした団体です。
市内には総社支部、清音支部、山手支部とあり、年間を通して様々な行事を開催し、会員相互及び地域の人々との交流を深めています。
障がい者手帳をお持ちの方ならごなたでも入会出来ます。

【入会について】

「入会申込書」に記入し、社会福祉協議会にお申し込みください。申込書は福祉課及び社会福祉協議会にあります。入会時に年会費500円が必要です。

主な活動事業：スポーツ大会、研修旅行、親睦会、県総合社会福祉大会及び市保健福祉大会への参加など

お問い合わせ先：総社市社会福祉協議会 障がい支援係 TEL 92-8379

清音支部親睦会



平成28年12月3日（土）

障がい福祉フォーラム ハートフルそうじゃ
「みんなが笑顔でやさしいまちへ」を開催しました。
（場所：総社市総合福祉センター・保健センター）

総社市地域自立支援協議会では、平成28年12月3日（土）～9日（金）の障害者週間に合わせて障がい福祉フォーラムを開催しました。



当日は、350名の地域の方にご来場いただき、盛況のうちに終わることができました。オープニングセレモニーでは、チューッピーやももっち・うらっちと一緒に、「チューッピー体操」をみんなで行いました。（表紙、また、館内では、市内の福祉事業所の販売コーナーや、カプラ®ブロックやポッチャに挑戦するコーナーもありました。子どもから大人まで、障がいがあってもなくても、みんなが協力しながら、同じ時間を楽しく過ごすことができました。

このハートフルそうじゃは、地域のみなさまに集めていただいた「赤い羽根共同募金」の支援を受けています。みなさまからの温かいご支援により、笑顔で無事に開催することができました。ありがとうございました。





※ご了承をいただいた方についてのみ、紙面上に寄付金額を掲載させていただいております。

種 別	金 額	寄 付 者	住 所
香典返し	300,000 円	森下 紀夫 亡父（和郎）	駅前一丁目
歳末たすけあい	74,328 円	総社市仏教会	上原（興禅寺）
	もち米 15 kg	国府 浩富	総社
	9,951 円	オギノ商事岡山県立大学売店利用者一同	窪木
	50,000 円	角田 悦男	窪木
篤志品	竹ぼうき、熊手各 28 本	平田 靖志	穴栗
	米 60 kg	秋山 浅二	門田
	米 570 kg	瑞泉院 高原妙泉	岡山市中区平井

下記については、金額の多寡にかかわらずご希望により寄付金額は掲載しておりません。

寄 付 者		住 所	寄 付 者		住 所	寄 付 者		住 所
▽香典返し								
文屋 秀雄	亡母（今野）	東阿曾	桑野 信一	亡母（京子）	真庭市福田	劔持 七生	亡母（静江）	中央二丁目
渡辺十四子	亡夫（礼之助）	総社二丁目	山口 正夫	亡父（邦夫）	清音軽部	石田 健悟	亡母（球恵）	井手
加藤 一	亡母（文子）	刑部	三宅 精一	亡母（あき子）	井手	山本よしこ	亡夫（茂）	金井戸
一柳 樹志	亡父（正樹）	清音三因	友杉 章	亡父（勝美）	総社一丁目	秋山 壮一	亡母（守屋なつ子）	新本
平田 雅信	亡母（公子）	見延	白神はるみ	亡母（八重子）	井尻野	小西 純二	亡母（フサ子）	門田
河西 周子	亡夫（文男）	秦	赤木栄太郎	亡母（幸）	清音上中島	松浦 清二	亡母（菊枝）	山田
中村 哲章	亡母（政子）	総社二丁目	中村 文彦	亡祖母（常子）	三輪	赤木鹿寿美	亡夫（正志）	山田
本安 節子	亡夫（登）	久代	元田 豊喜	亡母（多美子）	中原	難波 律子	亡夫（尚）	総社二丁目
前田 政利	亡父（勉）	長良	安井 充寛	亡母（美千代）	窪木	畑 宏造	亡母（澄江）	金井戸
赤松 宜和	亡父（義博）	窪木	野崎 周作	亡祖母（操）	新本	栢野 信弘	亡父（剛）	久米
木口 敏夫	亡母（文子）	山田	有可 丈典	亡父（洋典）	下倉	染谷 誠	亡父（勇治）	総社
小倉 志郎	亡父（昇）	西阿曾	横田 昌弘	亡父（誠之）	総社一丁目	染谷 誠	亡祖母（難波ひさよ）	総社
中田 操	亡夫（要）	西阿曾	中田 正昭	亡妻（淑子）	下倉	高波 豊利	亡妻（智恵子）	泉
佐田野 弘	亡父（昇）	新本	秋山 光一	亡父（昌信）	井手	宮川 康弘	亡父（武志）	三須
頓宮 保二	亡妻（富士子）	中央一丁目	神崎 登	亡妻（學）	北溝手	佐伯 敬二	亡母（二美子）	日羽
富岡 淑子	亡夫（勝司）	黒尾	太田 茂	亡父（包雄）	総社	藤井 圭代	亡夫（義昭）	清音軽部
丹原 憲子	亡夫（教）	西阿曾	室山 文孝	亡母（安子）	清音上中島	久保 博雅	亡父（昌二）	西郡

（平成28年10月21日 から 平成29年1月20日まで 敬称略）

事務局長

Topics

ひきこもりの方
未来のために！

ひきこもりの支援を考える懇談会

で、次のような事例をご紹介いただき

きました。「ある方の息子さんが、

中学生の頃からずっとひきこもって

おられ、誰に相談すれば良いか分か

らず、とても悩んでいた。総社市で

ひきこもり支援が始まることにとて

も期待している」と話してください

ました。また、ある民生委員さんか

らは、「大学を卒業して企業に就職

をされたが、人間関係がうまく行か

ず退職。その後、ずっと家に引きこ

もっておられ、どう対応すれば良い

かとても悩んでいる」と相談を受け

ているとの事でした。

総社市では、ひきこもりの方の実

態を調査し、支援について考えたこ

とは、初めてのことです。

市内17地区で実施した懇談会を通

じて、少なくとも200名を超えるひき

こもりの方が総社市内におられる事

実が明らかになりました。

総社市では、ひきこもりの支援は、

「社会全体課題」として捉え、「全

国屈指の福祉会議」でも取り組むこ

とになりました。決して簡単なこと

ではありませんが、ひきこもりの方

の未来のために取り組みます。

11

みんなのちいきふくし

社協の災害支援

平成28年11月12日（土）に災害ボランティアセンター設置・運営演習を実施しました。この演習に、災害ボランティアや地区社協、民生委員・児童委員、福祉委員など日頃地域福祉活動に従事されている方々や、行政・専門職員も含め108名のご参加をいただきました。

3回目となる今年度の演習は、岡山県・岡山県社協・総社市との協働で開催し、市外からも多くの参加者が集い、有意義な演習となりました。



災 害 ボ ラ ン テ ィ ア セ ン タ ー



今回は、南海トラフ地震の発生を想定した演習で、市総合福祉センターに災害ボランティアセンターを設置するところから始めました。

当センターは、①本部、②総務、③ボランティア受付班、④ニーズ把握班、⑤マッチング班、⑥要配慮者対応班で構成し、さらに⑦被災者役、⑧ボランティア役を加えた8つの役割に分かれて被災者の相談からボランティアの調整、ニーズ調査まで一連の流れを確認しながら実践的に行いました。

設 置 ・ 運 営 演 習

これまでの様々な災害支援に携わってきた経験から、「災害時要配慮者」への支援を課題に掲げ、特に高齢者や障がい者、外国人など情報・ニーズの受発信が難しいと想定される方々に対して、どのような支援ができるのかということを考えました。

地域包括支援センターや地域自立支援協議会（障がい者支援団体など）、多文化共生推進員（外国人支援者）など専門的な視点からのアドバイスをいただき、理解を深めることができました。

今後も、地域や行政・専門機関の皆様と共に災害支援の在り方を考えていきたいと思います。

